



宮司プレス 第百六十九号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫
 発行 令和三年五月三日

◇宮司の柴田です。 風薫(かお)る五月となりました。 境内に、鯉(こい)のぼりを掲揚(けいよう)しました。



古(いにしえ)、中国に龍門(りゅうもん)という、それはそれは、険(けわし)しい滝(たき)がありました。 その滝を登りきろうと、勇敢果敢(ゆうかんかかん)に挑(いど)んだ鯉(こい)が、見事、その大願(たいがん)を成就(じゆうじゆ)したならば、龍(りゆう)になるという言い伝えがありました。 中国地方の太守(たいしゆ)公(こう)は、「人生には三つの坂(ま)がある、上り坂と下り坂とそして、真坂(まさか)である。 その真坂の時に、どう生きるかによって、下り坂にもなるうし、上り坂にもなる。 真坂な時が、人生で、一番大切

だ。」と仰(おっしゃ)いました。 その「真坂」の時、所謂(いわゆる)、人生のターニングポイントでもいうべき、次なるステージへ展開(てんかい)していくために超えなければならぬ壁(かべ)を、「登龍門(とうりゅうもん)」というのは、前述(ぜんじゆつ)した、この中国の龍門伝説(りゅうもんでんせつ)からきています。 したがって、龍門伝説(りゅうもんでんせつ)にあやかり、子供の成長(せいじやう)とあわせて、立身出世(りっしんしゆつせ)を願(ねが)うのが、この「鯉のぼり」なのです。

◇さて、私共(わがら)は、昨年(こぞ)から、まさに、「真坂」の時を迎(むか)えていまして、「一都二府一県(いちとふにふけん)」には、三度目の「緊急事態宣言(きんぎょじたいげんぎ)」が、発出(はつしゆつ)した「下り坂」にならずに、「上り坂」になるのでしょうか。 われわれの御先祖様(ごんせんぞさま)は、いかなる危機(きき)にまわれつつも、それを乗り越えて、今日の繁栄安全平和(はんえいせんぜんへいわ)の世の中をつくりあげてくれました。 特に、明治の御維新(ごいしん)から、短い期間(きかん)で、欧米列強(おうべいれつじやう)のおうべいれつきよ)に肩を並べられたのは、まさ

しく、大奇跡(だいきせき)です。 しかも、日清日露戦争(にっしんにちろせんそう)という国難(こくなん)を乗り越えて、得られた先進国(せんしんこく)への仲間入り(なかつり)でした。 明治時代の日本(にっぽん)が迎(むか)えていた、その「真坂」の時、明治天皇様(めいじてんじやうさま)は、御製(ごせい)「ぎよせい」に、

「世の中の 事ある時に あひぬとも

おのがつとめむ ことな忘れそ」

と、お詠(よ)みになられています。 感染(かんせん)拡大(かくだい)も支障(しじやう)が続き、私共(わがら)の日常生活(じふじやうせいかつ)にも支障(しじやう)をきたし、不穩(ふおん)な状況(じやうきやう)であります。 しかしながら、「おのがつとめむことな忘れそ」でありますから、今(いま)、与えられた、なすべき事に全力投球(ぜんりよくとうきゆう)ではありませんでしょうか。

◇第八十四代(だいはつじゆだい)の天皇様(てんじやうさま)で、建久八年(けんきゅうはちねん)といひますから、西暦(せいれき)千二百年(せんにひゃくねん)に、御即位(ごごすく)された順徳(じゆんとく)天皇様(てんじやうさま)は、「禁秘御抄(きんひごしやう)」という御著書(ごしやくしょ)「たてまつられた際(さい)」には、まず、神様(かみさま)にお供(とも)えをしてから頂くようにと説(と)かれていいます。 歴代(れきだい)の天皇陛下(てんじやうへい)下御皇室(ごんてんじやうせい)は、敬神崇祖(けいしんすうそ)という日本の国風(こくにふう)にがらんの最大(さいだい)の実践者(じっせんしや)、「厳修者(げんしゆうしや)」であったことは、論(ろん)

をまたないところでは、その敬神崇祖の最大最高の厳修者は、順徳天皇様といつても過言（かごん）ではありません。神宮さんと宮中三殿（きゆううちゆうさんでん）の方向に、足を向けることすら、お許（ゆる）しにならない徹底（てつてい）ぶりでした。前述しました、その「禁秘御抄」の中に、「先神事（まじしんじ） 後他事（のちあだしこと）、神事を先にし他事を後にす」とあります。わたくしどもにとりましては、明治天皇様の仰つた、「おのがつとめむ ことな忘れそ」こそ、順徳天皇様の御著述（ごちよじゆつ）された「先神事」ですから、「真坂」の時が、「上り坂」への「登龍門」となりますよう、祭典厳修（さいてんげんしゅう）にとつとめて参（ま）い（る）所存（しよぞん）です。皆様方の日々の暮らしも、必ず、「上り坂」への「登龍門」となりますよう、お祈り申し上げます。

◇四月の祭典行事報告

- ▼月次祭 * 四月一日、四月十五日
- ▼早起会参拝 * 四月一日
- ▼竹の子島金刀比羅宮例祭 * 四月四日
- ▼六連島八幡宮境内社荒神社（こうじんじや）例祭 * 四月九日
- ▼船島神社例祭ならびに巖流佐々木小次郎大人命慰霊祭 * 四月十日

▼福浦稻荷神社例祭 * 四月十一日

▼彦島地区戦没者慰霊祭 * 四月十五日

▼朝粥会 * 四月二十一日

▼木暮実千代（こぐれみちよ）顕彰館開所清祓式 * 四月二十四日



▼朝粥会 * 四月二十一日

▼山口県漁協南風泊底引網組合大漁祈願祭参拝 * 四月二十七日

▼昭和祭 * 四月二十九日



▼神社責任役員総代会

* 四月二十九日

◇五月の祭典行事予定（報告も含む）

▼月次祭 * 五月一日、十五日

▼貴布祢神社、貴布祢稻荷神社月次祭 * 五月一日



▼塩釜神社例祭 * 五月三日

▼衣替（ころもがえ） * 五月五日

* 当宮では、立夏（りっか）と立冬（りっとう）で装束（しようぞく）が、衣替です

▼朝粥会 * 五月二十一日

◇五月の宮司動静予定

▼彦島八幡宮関係団体

□奉賛会役員会 * 五月十二日

□敬神婦人会総会 * 五月三十日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

□山口県神社庁役員会 * 五月二十一日

□同教化部教化委員会 * 五月二十四日

▼教誨活動 ※美祢社会復帰促進センター

□集合教誨（女子） * 五月十七日

□集合教誨（男子） * 五月三十一日

▼その他

□迫町自治会役員会 * 五月十九日

□人権擁護委員会人権相談

* 五月二十六日

□玄洋中学校学校運営協議会（CS）委員会

* 五月十四日